

くれよん



2018年6月

運動会シーズンとなりました。町内でも小学校を皮切りに幼稚園・保育園で運動会が行われますね。近年の傾向として、午前中で全日程を終了する学校が増えてきているそうですね。“保護者の方のお弁当を作る負担は少なくなった”、と思う気持ちもあれば、少し寂しい気持ちもあります(*_*)。

親の会 総会・懇親会 報告

5月25日(金)、りふれ2階子ども発達支援センターにて、親の会総会・懇親会が行われました。参加者は保護者6名、子ども3名、職員6名と人数は少なくなりましたが、予定していた1時間半をオーバーし、密に交流できたのではないかと思います(*_*)。

今年も役員を引き受けてくださった方におかれましては、ありがとうございます。1月の懇親会、お楽しみ会、フリーマーケット出店を予定しております。もし今後の活動に関して、何かご意見等ありましたら、いつでもお話しただければと思います。



6月の予定

◆プール指導

7日、14日、21日、28日

5日PMは岩見沢児相の巡回相談の為、指導はお休みです。

長沼町子ども発達支援センター

お子さんについて気になることがあればいつでもご連絡ください(*_*)

場所 長沼町南町2丁目3番1号

総合保健福祉センターりふれ2階

電話 0123-82-5555

(内線261)

受付時間 平日 8時30分～17時

※料金の徴収はございません。

自分自身へのやさしさは、自分を肯定する力

自分自身へのやさしさは、甘えとは別のものではないでしょうか。

このやさしさは、自分を肯定するために必要です。もしも、世界中の誰もが自分を理解してくれなかったとしても、自分を肯定する力があれば、人は生きていけます。

自閉症児のように、コミュニケーションが苦手なため、人に自分のことをわかってもらいにくい障害の場合、どれくらい自分に寛容であるかがとても重要だと思います。自分のことを好きでいなければ生きる気力を失ってしまうからです。

他人と会話できないということは、ひとり言をずっと言い続けているのと同じです。質問に答えてくれる人もいなければ、気持ちを共感してくれる人もいません。出口のない迷路を、たださまようだけで、そこには安らぎも楽しみも見当たらないのです。

そんな世界で、唯一の救いは「自分はよい人間だ」と思えることです。そうすれば、このようなつらい状況でさえも、乗り越えていけるでしょう。

自分にやさしくなれる人は、「あなたのことを愛している」と、言葉や態度で、たくさん伝えられた人だと思っています。

自閉症という障害のために、気持ちを言葉で表現できなくてもパニックを起こしても、自分のことを信じ、愛し続ける人がいれば、それは生きる勇気につながります。いつか、みんなに恩返ししようと考えられるのです。たとえ、ひとりぼっちになったとしても愛された記憶は消えません。こんな自分を愛してくれた人たちのために、これから先もがんばろうとするのではないのでしょうか？

自閉症の僕が生きていく風景 著者：東田 直樹